

平成27年度 自己評価及び学校関係者評価結果 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	自己評価	反省及び次年度への課題等	関係者評価
				A	B	C				
総務部	PTA活動の充実	月報やPTA会報の発行により、保護者への情報発信を行う。	月報やPTA会報についての保護者アンケートでのA・Bの割合	80%	70%	60%	77.9%	B	月報が白黒配布、月報や会報が届かない等の課題があるので、保護者にカラーを配布し、手渡しもする。	B
	広報活動の強化	ホームページ更新講習会を複数回開き、更新回数を増やす。	ホームページに関する保護者アンケートでのA・Bの割合	85%	75%	65%	91.6%	A	更新講習会は2回実施し、更新回数も多かった。今後は、更新の少ないカテゴリへの働きかけを行う。	A
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒アンケートで遅刻0に向けて努力したと回答した生徒・教職員の割合	90%	80%	70%	95.6%	A	2学期での皆勤者数が全学年で248人(57%)であった。遅刻数も146回(前年度257回)と減少してきた。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	1,2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合。3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合。	80%	70%	60%	73.8%	B	各検定の受検者数も増え、意欲的に取り組む姿勢がうかがえるようになってきている。(1年63.4%、2年92.9%、3年68.9%)	B
生徒指導部	校内外で積極的に挨拶をさせる	生徒会、風紀委員会、教員と協力し毎朝の挨拶運動を実施するとともに、全校集会(服装指導)などで指導を行う。	校内外で挨拶ができていますと答えた生徒・教職員の割合。	90%	80%	70%	94%	A	毎朝の挨拶運動や全校集会等で取り組んでいるが、継続指導と生徒会で呼びかけを行う。	A
	生徒の部活動への加入を推進する。	新入生対象に部活動のオリエンテーションを実施。定期的に参加状況を把握し部活動の加入を全校集会などで呼びかける。	全学年の部活に加入している生徒の割合。	90%	80%	70%	85%	B	概ね入部率は高いと評価できるが、引き続き学校活性化のため部活動紹介や全校集会、学年集会で呼びかけていく。	B
進路指導部	体系的・計画的な進路指導体制の構築	進路ガイダンス・進路ミュージカル・基礎カテスト・一般常識課題テスト・CCP・面接指導(3年生)等は進路決定に役立っている。	「進路指導部の取組は役立った」に対してA・Bを回答した生徒・教職員の割合	90%	80%	70%	100%	A	評価はしていただいているが、新テスト対応、4年制国立大への対応などの対応が急務である。来年度はそのステップとして実力診断テストを導入。	A
	進路検討会を活用した進路指導	進路検討会は生徒理解に役立ち、進路決定を促している。	「進路検討会は教員の生徒理解に役立ち、進路決定を促している」に対してA・Bの回答をした教職員の割合	80%	70%	60%	100%	A	評価はしていただいているが、さらに活発な会議になるような手立てを講じる必要がある。	A
健康相談部	健康状態の把握と適切な対応	健康観察簿、健康診断、諸検査の結果や日常の相談などから適切な対応を行う。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	80%	70%	60%	89.70%	A	緊急時の対応を含め分掌内の連携のもと適切な措置がとれた。より適切な対応が取れるだけの設備の充実(コピー機、電話子機、収納棚等)を願う。	A
	教育相談活動の充実	スクールカウンセラー、ケース会議等の活動を通して適切な対応に努める。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	80%	70%	60%	75.90%	B	SCとの情報交換を行い効果的なカウンセリングができた。生徒の変化を平素より注視し、プチ会議等例年以上に開催したことで迅速な対応ができた。情報発信については今後の課題である。	B

図書研修部	授業や研究に役立つ資料の選定・収集に努める。	出張図書館や図書館ニュースを通じて、図書館の資料を紹介する。図書館運営委員会を通じて、先生方のリクエストに応える。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 80%	B 70%	C 60%	93.30%	A	出張図書館ができなかったのを、来年度は実行したい。先生方に付けていただける図書館になるよう、リクエストなどどんどんお寄せください。	A
	生徒の豊かな感性を育む読書指導を行う。	図書委員会主催のイベントや図書館ニュースを通じて、生徒の読書活動を支援する。	「図書館の設備や雰囲気は利用しやすい」という生徒アンケートの「A」「B」の割合。	A 80%	B 70%	C 60%	95.10%	A	定期的な図書委員会活動をもっと展開して、生徒の読書活動を支援したい。	A
寮務部	基本的な生活習慣を身に付ける指導を行う。	あいさつ、時間厳守について毎日できたかどうか。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 90%	B 70%	C 50%	77.80%	B	食事中にスマホを操作したり、朝の起床が遅れらることもあり、そのことについての共通認識も不十分な部分もあった。	B
	寮内外の環境整備を行う。	寮内外の定期的な掃除を行うことができたかどうか。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 90%	B 70%	C 50%	70.60%	B	2に人しか寮生がいないので、十分な掃除ができてない。	B
農場部	研究活動を推進する	①実験・実習の積極的な展開 ②生徒自らが課題解決学習に積極的に取り組む	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 95%	B 90%	C 85%	95.8%	A	研究を推進する体制を整えることが出来た。一層の研究推進を行いたい。	A
	環境整備の徹底	①役割分担の明確化 ②定期的な点検 ③適切な環境整備計画の立案	「環境整備」を問うアンケートに対する「教職員」「生徒」のA・Bの回答割合	A 90%	B 85%	C 80%	96.2%	A	教職員、生徒が一体となり、農場の環境整備向上につとめることが出来た。	A
植物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①85.7% ②99.0% (平均) 92.4%	A	数字はよくなっているように、徐々に向上心が見られるようになった。継続した指導をしていきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①96.2% ②57.1% (平均) 76.7%	B	課題研究については、部門によっては結果が出た。資格取得については、農業技術検定は、今年も高い合格率を維持できた。	B
環境科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①92.6% ②94.7% (平均) 93.7%	A	自己評価の数字は良いが、実体は時間厳守とは言えないところや、着こなしが十分でない場面がある。今後とも継続的に指導する必要がある。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①92.6% ②57.4% (平均) 75.0%	B	特に、1年次の資格取得について考える必要がある。課題研究については内容を高めていくことだが、内容の吟味が必要である。	B
食品科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①96.6% ②98.3% (平均) 97.5%	A	全学年ともに目標達成感が高いが、あくまで生徒の自己評価なので、教員側の指導の継続が必要である。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価16」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①92.4% ②61.9% (平均) 77.2%	B	昨年同様、プロジェクト活動に対する充実感に対して、資格取得に対する達成感が低い。学科関連の資格指導に皆が努力しているが、一層教員側の取組強化が必要であろう。	B

動物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①97.3% ②100% (平均) 98.6%	A	午後の実習時には昼休みの間から集合するなど生徒の良い意識と取り組みがうかがえる。また、実習服の着こなし、髪を結ぶなどの取り組みも生徒が進んで良い方向に取り組んでいる。継続して指導していきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価18」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	①95.5% ②50.9% (平均) 71.8%	C	課題研究については高い数値が出ており、中国大会出場や外部の発表会へ参加するなど成果も出ている。資格取得日では1年生、2年生で満足度が低かった。科としての取り組みが必要である。	C
一年部	学校生活の充実	ルールとリレーションが確立された学級集団をつくる	アンケートQU(2回目)の満足群に属する生徒数の割合	A 60%	B 50%	C 40%	56%	B	1回目のQU時に比べ要支援群が若干増加傾向にある。しかし、長期欠席や問題行動等が起こることも無く、クラス担任をはじめ関わりのある先生方の丁寧な指導のおかげである。今後ともよろしく願いたい。	B
	基礎学力の向上	マナトレ10級から7級を全員が合格できるように指導する	マナトレ10級から7級を合格した生徒の割合	A 90%	B 85%	C 80%	国99.7% 英98.6% 数98.0%	A	概ね良好な成績であるが、7級で不合格者が見受けられる。今後、難易度が上がるにつれて不合格者が増加する可能性が高いことから、気を緩めることの無いよう指導を必要とする。	A
二年部	自己管理能力の向上	各クラスや学年集会(年間:5回実施)での指導	「自己評価10~13、24」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	平均 92.2%	A	遅刻・欠席数は昨年よりも減少し、生徒達の意識も変わってきたと考える。また、「きれいな農場づくりに取り組んだ」という項目も昨年より評価が高く、一人ひとりが農場により目を向けるようになったと考える。しかし、その中でも机・ロッカー等の整理整頓ができていない生徒が多い。このことが課題である。	A
	基礎学力の向上	一般常識テストへの取り組み	一般常識テスト(4回実施)平均点の割合	A 400点以上	B 399点~300点	C 299点~200点	平均 336点	B	昨年の平均329点よりは向上したが、目標としていた平均400点以上は達成できなかった。一般常識テストは、就職・進学する上でとても大切なものである。すべての生徒が8割以上理解できるように、今後は学年集会での呼びかけや各クラスでの勉強会実施(個別指導も含む)、こまめに提出させチェックすることを実施していきたい。	B
三年部	自己実現に向けた生活の実践	①諸行事に中心的な役割を果たす ②時間の厳守等自己管理能力の向上を目指す	「自己評価8~13」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 80%	B 70%	C 60%	平均 92.3%	A	農業祭等主要行事に積極的な関わりと指導力を発揮し、最上学年としての責任と自覚を示した。一方、時間厳守や身の回りの整頓など指導を要する面もあった。	A
	希望進路の実現	進路ガイダンス等に積極的に参加し、進んで進路実現に努力する	卒業時の進路決定の割合	A 100%	B 98%	C 96%	98%	B	概ね達成できた。部活動未加入や資格取得に消極的な生徒に進路実現に消極的な傾向が伺われた。	B